

平成9年度 和歌山県文化功労賞

すぎもと しずお
杉本 静雄

住 所：和歌山県御坊市

出 身 地：和歌山県御坊市

生 年：大正12年

◎業績及び経歴

氏は、昭和22年に御坊市に帰郷後、農業の傍ら写真技術の鍛錬を続け、昭和27年には、その写真技術を地域に活かすため写真店を開業する。

その後、南紀カメラクラブの前身である「光画クラブ」や「全日本写真連盟」へ加入し、後進の指導にあたるとともに、その写真技術を互いに切磋琢磨することにより芸術性を高めていった。

昭和29年に、全日本写真サロンにおいて作品「麦秋」が特選に選ばれたのに続き、国際写真サロン、日本写真美術展、日本報道写真展などの国内の各種展覧会で作品を発表し、特選を始め、幾多にもわたり受賞の栄に輝き、高い評価を得た。その活動は海外にもおよび、日米親善写真ニューヨーク展、ス・ワンダフル・ジャパン展では、我が国の風景や人々をカメラレンズをとおして紹介するなど、その作品から溢れ出る、氏の人柄と郷土への深い愛情は、多くの人々から絶賛された。

また、自らが生まれ育った日高地方の美しい自然、そこで暮らす人々やその風習などを後生に伝えるための写真集「日高に生きる」を始め、四季折々に咲き乱れる花の彩りを風景にちりばめた写真集「花」を発行した。花卉や花心が見るものにその感情を語りかける作品は、誰に見せるでもなく野に咲き誇る無数の花々が持つ、神秘的な美しさを多くの者に伝えた。

氏の活動は、こうした自らの芸術を磨くだけでなく、昭和43年から和歌山県美術家協会理事や和歌山県美術展覧会審査員として、後進の指導にあたるなど、本県の美術文化の発展に大きく貢献し

た。

さらに、昭和47年より全日本写真連盟関西本部委員を務めるなど写真芸術の更なる発展に尽力を続けている。

その人柄や情熱溢れる美しい写真により多くの人々を魅了し、美術の振興に努めた、氏の地域文化に対する功績は多大である。

■現在

和歌山県美術家協会理事

和歌山県美術展覧会審査員

全日本写真連盟関西本部顧問

日本写真作家協会会員

■主な表彰歴等

昭和60年 御坊市文化賞